

A11：条件付け学習

年	No	正解	解釈
4	4	c	<p>all 古典的条件付けとオペラント条件付けの分類の問題ですが、迷い無く解答できることが必要だと思います。</p> <p>A オペラント:家事の手伝いはオペラント行動です。</p> <p>B 古典的:視覚情報が無条件刺激である味覚に先行する条件刺激です。</p> <p>C 古典的:病院のイメージが先行する条件刺激で、注射の経験が無条件刺激です。</p> <p>D オペラント:これは宿題をしていった事がオペラント行動なので、オペラント条件付けであることがわかり、答えはすぐです。ただ、内容の理解としては、強化刺激に「罰」を使っているところが微妙です。結果として宿題をするという行動が増えているので、この場合は負の強化が行われていて、宿題をすることは回避行動ということになります。「罰」は学習の用語としての罰ではなく「負の強化子」として使われた嫌悪刺激です。2-(1)の末尾参照。</p>
8	28	e	<p>all オペラント条件付けの問題です。</p> <p>a ○: 2-(1)参照。</p> <p>b ○: 2-(2)参照。</p> <p>c ○: 報酬訓練とは正の強化、回避訓練とは負の強化だと思います。弁別訓練とは、弁別刺激を行動の分化条件付けに用いる訓練法です。基本のオペラント条件付けでは、例えばランプの点灯のような「弁別」刺激を手掛かりとして、オペラント行動の強化が計られるだけですが、2色のランプの一方のみにオペラント条件付けすることを分化条件付けといい、そのような学習を「弁別」学習と言います。 「弁別」という言葉が、弁別刺激と弁別学習の2つの言葉に使われているので、混乱します。</p> <p>d ○: 2-(1)参照。</p> <p>e ×:これは罰です。負の強化では、回避行動が増加します。2-(1)の末尾参照。</p>
11	11	d	<p>all オペラント条件付けの問題です。内容は、今までの出てきたものです。</p> <p>A:正の強化、B:正の強化子、C:罰</p>
13	10	c	<p>all 古典的条件付けの問題ですが、解りにくい問題だと思います。この問題では、<u>ブザーによる覚醒が無条件刺激による無条件反射です</u>。そして、ブザーに先立つ膀胱圧の高まりと覚醒を結びつけるのが条件反射の成立です。膀胱圧の高まりで覚醒することは、無条件反射ではなく、<u>トイレットトレーニングで獲得される条件反射だ</u>ということです。</p> <p>A:レスポンデント、B:膀胱圧の感覚、C:覚醒</p>
14	10	b	<p>1-(2)参照。オペラント条件付けの問題で、内容は基本的なことですが、出だしの「反応に随伴して何らかの結果を与えるとき」という表現は微妙で、それ以降の表現から判断しないとわからない問題です。これは、意図的に曖昧にしている気がします。こういうところに引っかからず、そのまま先を読んでいくことが大切で、これは実際のカウンセリングでの心構えと似ています。</p> <p>A:強化、B:消去、C:般化、D:分化</p>
19	16	d	<p>all この問題は、条件付け学習と A12 その他の学習が混在した設問で、BD は A12 に載せています。</p> <p>A × : 1-(1)参照。条件刺激が無条件刺激に先行して対呈示されることが重要です。</p> <p>C ○ : Pavlov,I.P の犬の実験で見られた、新規刺激に対して反射的に注意を向けてしまう反応を言います。非特異的反応とは、刺激の種類に依存しないことを言っています。</p>
20	4	b	<p>all この問題は、学習理論の問題ですが、C は A12 の観察学習に関係する内容で、B は D11 の認知行動療法に載せています。</p> <p>A ○: 1-(1)参照。この問題では対呈示を「組み合わせ」と記述しています。</p> <p>D ×:効果の法則は A12-2 の Thorndike の試行錯誤学習の内容です。ただ、ここからオペラント条件付けに繋がっていくため、内容的には一見合っていますので間違えてしまう可能性が</p>

				ある設問です。
--	--	--	--	---------